

## モデル地区としてスタート!!

### 宇原自治会の取り組み

宍粟市社協では、自治会の規模や実情にあった福祉連絡会づくりを各自治会にお願いしています。

宇原自治会では、7月17日(火)に23名が参加して福祉連絡会「いきいきふれあいの会」が開催されました。

この日は、社協職員も参加し小地域福祉活動や福祉委員の役割について説明した後、今年で11年目を迎える三世代交流事業の宇原ふれあいの集いが企画されました。

「活動は定着してきたけど内容がマンネリ化している」「参



宇原福祉連絡会は、自治会役員、福祉委員、民生児童委員をはじめ各種団体の31名で構成されています



昨年の宇原ふれあいの集いゲームコーナーの様子  
福祉連絡会や毎月開催のふれあい活動など戸原ふれあいセンターが活動の拠点になっています

加できない人への呼びかけをどうすれば…」など課題についても話し合われました。

また、社協から小地域福祉活動のモデル地区指定について依頼し、承諾していただきました。

山崎からは鶴木自治会とこの宇原自治会の2地区がモデル地区となりました。

この新しい取り組みにより、地域にあった福祉活動が無理なく継続されることを期待します。

(山崎支部 森井裕矢)

## 福野と西深をモデル指定

小地域福祉活動モデル地区を受けていただいた福野と西深自治会(一宮から2地区指定)。

7月13日(金)、福野福祉連絡会が公民館で開催され、福祉委員や自治会長など16名が集まりました。

当日は本会の職員が参加し、モデル地区の目的や取り組みについて説明を行いました。

「モデル地区といっても難しいことは…私たちのできるころから進めていければ」と、代表福祉委員の長田正武さん。

定期的な情報交換(連絡会議)やふれあい喫茶の開催、ゆるやかな見守りの体制づくりなど、できるころから活動を進めていくことを確認しました。

また、「自分の先のことを考えながら、こうなったらええなと思えること



代表福祉委員を中心に、自治会長、福祉委員、民生委員、民生協力委員、ふれあい喫茶リーダー、婦人部、評議員、ボランティアのみなさんと話し合う ~福野公民館~

ができれば…」「こういった場(福祉連絡会)を持つことは大切」との意見が聞かれるなど、有意義な連絡会議となりました。

福野と西深のみなさん、福祉連絡会を中心に、できるころから無理なく計画的に実践してください。

(本部・一宮支部 波多野好則)